

3. 用語解説

1 県内生産額：県内に存在する各産業の生産活動によって生み出された財・サービスの生産額をいい、まず、約 3,800 の品目に分類整理した財・サービスの品目ごとに国内生産額を推計し、次いで、これを基本分類部門ごとに積上げて、各産業部門の県内生産額が推計されている。

2 年平均伸び率の計算式：

$$\left\{ (\text{平成12年県内生産額} \div \text{平成7年県内生産額})^{\frac{1}{5}} - 1 \right\}$$

3 産業：産業連関表でいう「産業」とは、約 3,800 に分類した財・サービスの個々の生産活動を意味しており、同一事業所で2つ以上の商品を生産している場合は、それぞれ区分して該当する各産業部門に分類する。したがって、企業あるいは事業所をベースとして分類される通常の「産業」とはその概念を異にする。

また 11 部門について、ここでは次のように区分した。

- ・第1次産業：農林水産業
- ・第2次産業：鉱業、製造業、建設業
- ・第3次産業：電気・ガス・水道、商業、金融・保険・不動産、運輸・通信、公務、サービス
- ・分類不明

<注>ただし全国表においては電気・ガス・水道部門のうち電力・ガス・熱供給を第2次産業に区分し、第3次産業産業からは除いている。また、本県では第3次産業のサービスを区分している「事務用品」を第2次産業の製造業に区分している。

本編4ページにおける財・サービスの区分においては、全国表の第1次産業及び第2次産業を「財」の範囲とし、同じく全国表の第3次産業および分類不明を「サービス」の範囲としている。

4 中間投入(率)：各産業部門の生産活動に必要な原材料・燃料等の財及びサービスの購入費用をいう。なお、生産設備等の購入費用は資本形成とされ、中間投入には含まれない。

中間投入率 = 中間投入 ÷ 国内生産額

5 粗付加価値額(率): 生産活動によって新たに付け加えられた価値をいい、中間投入に粗付加価値を加えたものが国内生産額となる。粗付加価値は、家計外消費支出、雇用者所得、営業余剰、資本減耗引当、間接税及び(控除)補助金から構成される。

なお、粗付加価値から家計外消費支出を控除したものが、国民経済計算における国内総生産(GDP)にほぼ対応する。

粗付加価値率 = 粗付加価値額 ÷ 国内生産額

6 資本減耗引当: 減価償却費と資本偶発損の合計

7 間接税: 財・サービスの生産・販売、購入又は使用に関して生産者に課せられる租税及び税外負担で税法上損金参入が認められていて、所得とはならず、しかもその負担が最終購入者へ転嫁されるもの。ただし、ここでいう間接税には、関税及び輸入品消費税は含まれてない。

8 総需要: 総供給(国内生産額 + 移輸入)に対応するもので、県内需要と移輸出からなる。なお、県内需要は各産業部門の生産に投入された中間需要及び県内最終需要(消費 + 投資)からなる。

9 総供給: 国内生産額に輸入を加えたものをいい、総需要に等しい。

総供給 = 国内生産額 + 輸入 = 総需要

10 移輸出: 移出及び輸出の合計。輸出は、FOB 価格(本船渡し)の価格)で評価している。

11 移輸出率: 「移輸出額 ÷ 県内生産額」の計算を行うことにより求められる。なお、産業連関表では定義的に再移輸出(移輸入品の移輸出)を認めていない。

12 移輸入: 移入及び輸入の合計。ここでの輸入額は、関税及び輸入品所品税(輸入品に係る内国消費税)を含めたものである。

13 移輸入率: 各部門ごとに「移輸入額 ÷ 県内需要額」の計算を行うことにより求められる。

14 県際収支: 各産業部門は需要を満たす為に生産を行うが、その生産すべてが、県内で需要されているのではなく、一部は県外へ移輸出される。また、県内総需要はすべて県内生産額で賄われるのではなく、一部は県外からの移輸入で充てられる。この移輸出額と移輸入額との差を県際収支としている。

15 県内自給率：「 $1 - \text{移輸入率}$ 」で定義される。県内需要を満たすための県内生産の割合をいう。つまり県内で発生した需要に対して県内産で賄われた割合をいい、県内自給率が高くなれば県内での生産誘発額が増加し、経済波及効果は大きくなる。

16 (最終需要項目別)生産誘発額：県内生産活動は、最終需要を過不足なく満たすために行われている。つまり、最終需要が県内生産を誘発しているといえる。このように、最終需要を賄うために直接・間接に必要な県内生産額を生産誘発額といい、これを最終需要の項目別にみたものが、最終需要項目別生産誘発額である。なお、最終需要項目別生産誘発額を各産業部門別に合計したものは、当該産業部門の県内生産額に一致する。

17 (最終需要項目別)生産誘発依存度：各産業部門（あるいは産業計）における生産誘発額の最終需要項目別構成比であり、各産業部門（あるいは産業計）の生産が、どの最終需要項目によりどれだけ誘発されたかの割合を示している。

ある産業における最終需要項目別生産誘発額

当該産業（あるいは産業計）における最終需要全体による生産誘発額

18 (最終需要項目別)生産誘発係数：各項目別最終需要額計に対する、ある産業部門（あるいは産業計）における当該最終需要項目による生産誘発額の比率であり、当該最終需要の何倍の県内生産が誘発されたかを示している。

ある最終需要項目による各産業（あるいは産業計）の生産誘発額

当該最終需要項目の部門計

19 (最終需要項目別)粗付加価値誘発額：各最終需要によって生産が誘発されれば、それに伴い粗付加価値も誘発される。この誘発額を粗付加価値誘発額といい、生産誘発額に当該産業部門の粗付加価値率($= \text{粗付加価値額} \div \text{県内生産額}$)を乗じて求める。最終需要項目別の生産誘発額に粗付加価値率を乗じたのが最終需要項目別粗付加価値誘発額である。

20 (最終需要項目別)粗付加価値誘発依存度：各産業部門（あるいは産業計）における粗付加価値誘発額の最終需要項目別構成比であり、各産業部門（あるいは産業計）の粗付加価値が、どの最終需要項目によりどれだけ誘発されたかの割合を示している。

ある産業（あるいは産業計）における各最終需要項目別粗付加価値誘発額

当該産業（あるいは産業計）における最終需要全体による粗付加価値誘発額

21 (最終需要項目別)粗付加価値誘発係数：各項目別最終需要額計に対する、ある産業部門（あるいは産業計）における当該最終需要項目による粗付加価値誘発額の比率であり、当該最終需要の何倍の粗付加価値が誘発されたかを示している。

ある最終需要項目による各産業（あるいは産業計）の粗付加価値誘発額
当該最終需要項目の部門計

22 (最終需要項目別)移輸入誘発額：ある最終需要によって誘発されるのは県内生産のみではなく、各段階での需要の一部は移輸入によって賄われる。このように、最終需要によって直接・間接に誘発された移輸入額を移輸入誘発額といい、最終需要の項目別にみたものを最終需要項目別移輸入誘発額という。

23 (最終需要項目別)移輸入誘発依存度：各産業部門（あるいは産業計）における移輸入誘発額の内最終需要項目別構成比であり、各産業部門（あるいは産業計）の移輸入が、どの最終需要項目によりどれだけ誘発されたかの割合を示している。

ある産業における最終需要項目別移輸入誘発額
当該産業（あるいは産業計）における最終需要全体による移輸入誘発額

24 (最終需要項目別)移輸入誘発係数：各項目別最終需要額計に対する、ある産業部門（あるいは産業計）における当該最終需要項目による移輸入誘発額の比率であり、当該最終需要に対してどの程度の移輸入が誘発されたかを示している。産業計においては移輸入誘発係数と粗付加価値誘発計数の和は1となる。

ある最終需要項目による各産業（あるいは産業計）の移輸入誘発額
当該最終需要項目の部門計